

創造のためのアーカイヴ

2017

文化芸術資源の 活用による新たな表現

2017年9月30日(土) 13:00-16:30

基調講演 13:00~14:00 [60分]

「松竹映画をアーカイヴする: 遺したいもの、伝えたいこと」

講師 阿部 勉 (株式会社松竹映像センター代表取締役副社長)

パネルディスカッション 14:00~15:20 [80分]

「メディアアートのアーカイヴ: 記録・保存・修復の諸問題」(仮題)

モデレーター 関口 敦仁 (美術作家 / 愛知県立芸術大学大学院教授)

パネリスト 岩井 俊雄 (メディアアーティスト / 絵本作家) 植松 由佳 (国立国際美術館主任研究員)

全体討議 15:30~16:30 [60分]

基調講演者及びパネルディスカッションの登壇者

会場 | 京都文化博物館 フィルムシアター ※参加費無料

申込 | 先着順(定員150名) 京都文化博物館ホームページほかより申込み。※裏面参照

主催 | 京都府京都文化博物館

助成 | 平成29年度文化芸術振興費補助金(美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業)



基調公演

阿部 勉 | あべ つとむ

株式会社松竹映像センター代表取締役副社長

東北大学経済学部卒業後、松竹大船撮影所演出部に所属し、主に山田洋次監督のもと、「男はつらいよ」「学校」シリーズなどのチーフ助監督をつとめる。2000年『しあわせ家族計画』（ヒューストン国際映画祭ファミリーチャイルド部門金賞）を監督。以後、映画・TV・舞台の脚本・演出多数。2004年小津作品の修復過程を描いた『小津安二郎監督作品DVD化の軌跡』は、日本産業映画コンクール大賞を受賞し、高い評価を得た。現在、株式会社松竹映像センター代表取締役副社長。

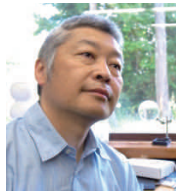


パネルディスカッション

関口 敦仁 | せきぐち あつひと

美術作家／愛知県立芸術大学大学院教授

1958年東京生まれ。美術作家。愛知県立芸術大学大学院美術研究科教授（環境デザイン領域研究室）。東京藝術大学大学院修了。メディアアート作品《分離する身体》、《インタラクティブ・カオス》、《La Guerre - 戦争 - J.M.G.ル・クレジオより》や、絵画、インスタレーションの制作発表のほか、史跡のAR表示研究、洛中洛外図や作法芸術などのアーカイブ表示研究を進めている。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授、学長を経て、現職。



岩井 俊雄 | いわい としお

メディアアーティスト／絵本作家

1962年愛知県生まれ。筑波大学大学院芸術研究科総合造形コース修了。大学時代に実験アニメーションの制作を始め、驚き盤やゾートロープといった映像装置に着想を得た作品《時間層II》で第17回現代日本美術展大賞を受賞。以降、国内外でコンピュータを使ったインタラクティブな作品を発表する。坂本龍一とのパフォーマンスでアルス・エレクトロニカ・フェスティバルのグランプリを受賞。ニンテンドーDS上で体験できるメディアアート作品「エレクトロブランクトン」、ヤマハと電子楽器「TENORI-ON」を共同開発した。近年は絵本制作の活動を行っており、最新作『その100かいだてのいえ』（偕成社）が今年8月に刊行された。



植松 由佳 | うえまつ ゆか

国立国際美術館主任研究員

香川県生まれ。丸亀市猪熊弦一郎現代美術館学芸員を経て現職。現代美術を中心に国内外で展覧会を企画。主な企画展にヴォルフガング・ティルマンズ、映像作品によるグループ展「夢か、現か、幻か」、やなぎみわ、ピピロツティ・リスト、草間彌生、ヤン・ファン・デル・グレンなどの個展がある。第54回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー。京都市立芸術大学非常勤講師。国立国際美術館におけるタイム・ベースド・メディアの保存修復に関わる。

お申込みについて

参加費用 無料 **受付方法** 下記1~3のいずれかの方法でお申込み下さい。

1) WEB 京都文化博物館ホームページより

2) FAX 本紙下部の申込み票にご記入いただき、送信してください

3) 持参受付 このチラシ下部の参加申込み表にご記入いただき京都文化博物館本館1階受付までご持参ください

お申込み先 京都文化博物館 (WEB・FAX・持参受付) FAX 075-222-0889 WEB www.bunpaku.or.jp

参加申込票

FAXでお申込みの場合はご記入のうえ本紙を075-222-0889まで送信ください。

お名前

お住まい 〒

※参加者全員分の記入をお願いします。

連絡先 電話 FAX メール

※お申込みいただいた皆様の個人情報は「創造のためのアーカイブ」ご登録に関わる業務のみの利用とさせていただきます。

アート(芸術表現)が培ってきた技術を他の領域において積極的に活用していくことが求められている今、アートを、来るべき将来に向けてアーカイブしていくことが重要となる。千二百年を超える歴史を有する京都が生み出した豊かな芸術文化資源を、保存と発表の実践を横断していきながら、未来の創造活動を触発する「創造のためのアーカイブ」としてとらえ直し、国内外の有識者・専門家・制作者をパネリストに迎え、日本の現状及び現代におけるアーカイブの有益な活用について議論するフォーラムを催す。本フォーラムでは、広い枠でアーカイブの立場から映画・映像及びメディアアートのアーカイブのあり方を再検討し、自由な議論を促す。そこでは、アーカイブ構築に伴う保存と、発表・展示の問題を並行して扱い、どの美術館や博物館もが直面している、時代と共に変化する技術への対応やコレクションにおける場、資金、専門家、手法など様々な課題を抱える国内の映像メディアの保存の問題とも結びつけ議論を展開していく。



京都文化博物館 bunpaku.or.jp
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
Tel.(075)222-0888 Fax.(075)222-0889